



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和8年10月号

〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381

TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

例年は残暑が厳しいのですが、本年度は雨天日が多く比較的涼しい日々です。ただ災害級の豪雨もあり、心配な日が多いです。そんな中でも子どもたちは長い夏休みからの生活リズムを整え、学校生活を楽しく過ごしています。引き続き、地域の皆様からも温かいお声掛けや見守りをお願いいたします。

「ダンゴムシ」

校長

ある SNS の投稿で、「家族はどんな人？」というテーマ（授業参観でしょうか）での、ある子どもの発言が紹介されているのを見かけました。読んだ瞬間、「はっ」としました。何となく自分の心の中に引っかかるものがあったからこそ、余計に心に刻まれ、残っているのだと思います。

「僕が知っている大人は、だいたいツヤツヤした、かっこいい鎧を着たカブトムシが好きで、自分の子どもがカブトムシじゃなくても、その鎧を着せたがる。だけど、僕の両親は違う。」

例えば、僕がダンゴムシでも、そのままを褒めてくれる。ジメジメしたところに隠れて、怖いと丸まることをダサいなんて言わない。何も派手な活躍をしなくても、落ち葉を分解して土をきれいにする役割を担っていることに注目してくれる。だから僕は、僕でいることに迷いがない。」

自分の子育てでは、どうだっただろう。子どもがダンゴムシであることをそのまま受け止めていただろうか。「カブトムシになったら、もっとすごいぞ」「もっとかっこよくなれるぞ」と、知らず知らずのうちに、私の思う「よい姿」を着せようとしてはいなかっただろうか。

……ふと思いました。これは、子育てだけの話ではないのではないか。私は学校経営において、この感覚をちゃんと持てているだろうか。大切にできているだろうか。

学校にも、「学校の育て方」があると思います。市之倉小学校の子どもたちには、それぞれのよさがあり、地域には、地域ならではの人や文化、歴史などの「素」があります。私は、それらをちゃんと理解し、そのよさに気づき、大切に認めて、見守り、そして伸ばそうとしているのだろうか。

今、ICTをはじめとしてさまざまな教育改革が目まぐるしいスピードで進んでいます。新しいものは魅力的です。先進的な実践を見れば、「市之倉小学校でも取り入れなければ」とあせることもあります。けれども、それをそのまま「着せ替え」のように受け入れてしまっただけではいけないのでしょうか。

一度立ち止まって、「では、市之倉小学校ではどうだろう。」「市之倉の子どもたちにとって、本当に必要なものは何だろう。」「この地域のよさを生かすためには、どうすればいいだろう。」と、見つめ直しながら新しい教育を取り入れることが大切だと思います。

思えば、私も担任時代、進路決定に向かう中学3年生の子どもたちに、「自分のよさを大事にしなよ」と言って、右の詩を届けていました。人には、それぞれ違ったよさがある。と、そんなことを子どもたちに伝えていたはずなのに、なかなか、自分のことになると実践するのは難しいものです。

みつをさんの言葉に甘えるのなら、「だって人間だもの」です。

でも、これからも「その子が、その子のままでいることに迷わない学校」「市之倉小らしさ」を、これからの学校経営の中でできる限り大切にしていきたいと思っています。